

# Asia Indicators

発表日: 2025年11月7日(金)

## 中国 10月貿易統計も「米国外し」の動きが続く(Asia Weekly(11/1~11/7))

～トランプ関税の本格発動後の輸出の動きは韓国と台湾で対照的な動き～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/1(土)	(韓国)10月輸出(前年比)	+3.6%	▲0.2%	+12.6%
	10月輸入(前年比)	▲1.5%	▲1.8%	+8.2%
11/3(月)	(インドネシア)10月消費者物価(前年比)	+2.86%	+2.65%	+2.65%
	9月輸出(前年比)	+11.41%	+7.72%	+5.78%
	9月輸入(前年比)	+7.17%	+1.00%	▲6.56%
11/4(火)	(韓国)10月消費者物価(前年比)	+2.4%	+2.2%	+2.1%
	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	3.60%	3.60%	3.60%
11/5(水)	(ニュージーランド)7-9月失業率(季調済)	5.3%	5.3%	5.2%
	(フィリピン)10月消費者物価(前年比)	+1.7%	+1.8%	+1.7%
	(インドネシア)7-9月実質GDP(前年比)	+5.04%	+5.00%	+5.12%
	(シンガポール)9月小売売上高(前年比)	+2.8%	--	+5.3%
	(タイ)10月消費者物価(前年比)	▲0.76%	▲0.70%	▲0.72%
11/6(木)	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	2.75%	2.75%	2.75%
	(台湾)10月消費者物価(前年比)	+1.48%	+1.40%	+1.25%
11/7(金)	(フィリピン)7-9月実質GDP(前年比)	+4.0%	+5.2%	+5.5%
	(中国)10月輸出(前年比)	▲1.1%	+3.0%	+8.3%
	10月輸入(前年比)	+1.0%	+3.2%	+7.4%
	(マレーシア)9月鉱工業生産(前年比)	+5.7%	+5.4%	+4.8%
	(台湾)10月輸出(前年比)	+49.7%	+31.6%	+33.8%
	10月輸入(前年比)	+14.6%	+25.3%	+25.1%

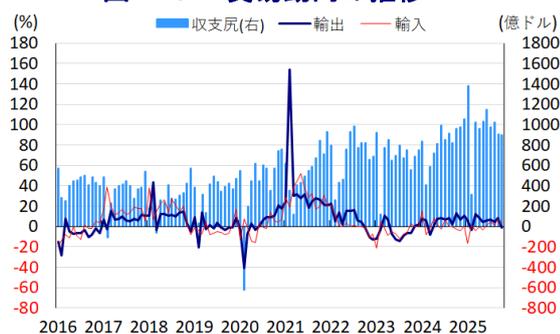
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [中国]~10月は輸出入双方で頭打ちが確認されるも、「米国外し」の動きを強める流れは変わっていない~

7日に発表された10月の輸出額は前年同月比▲1.1%となり、前月(同+8.3%)から8ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整費に基づく前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。米中摩擦の激化を受けて米国向け(前年比▲25.2%)は引き続き大幅マイナスで推移しているほか、欧米による対ロ経済制裁の強化の動きが影響してロシア向け(同▲22.7%)はマイナス幅が拡大するな

ど下振れしている。また、カナダ向け（前年比▲10.1%）や日本向け（同▲5.7%）も軒並みマイナスとなるなど下振れするとともに、比較的堅調な動きをみせてきたEU向け（同+0.9%）も伸びが鈍化するなど頭打ちの兆しをみせている。ただし、ASEAN向け（前年比+11.0%）やアフリカ向け（同+10.5%）は引き続きプラスで推移するも伸びが鈍化しているほか、中南米向け（同+2.1%）も頭打ちの動きを強めており、世界経済の不透明感が高まるなかで貿易が萎縮している可能性がある。一方、輸入額は前年同月比+1.0%となり、前月（同+7.4%）から伸びが鈍化している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じたと試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。米国（前年比▲22.8%）は引き続き大幅マイナスで推移する一方、米国に代わる穀物などの調達先となっている中南米（同+15.4%）は引き続き高い伸びが続いている。また、関係改善の動きを反映してインド（前年比+58.1%）も高い伸びをみせるほか、インドネシア（同+17.9%）も堅調な推移をみせるなど鉱物資源需要の多様化を図っている様子もうかがえる。こうした動きを反映して、数量ベースでは大豆（前年比+17.2%）や肥料（同+23.8%）のほか、原油（同+8.2%）や鉄鋼石（同+7.2%）、銅鉱石（同+6.1%）といった鉱物資源関連の輸入量は堅調な推移をみせている。結果、貿易収支は+900.74億ドルと前月（+904.47億ドル）からわずかに黒字幅が縮小している。

図1 CN 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【韓国】～トランプ関税の本格発動に加え、世界貿易の萎縮の動きが輸出入の足かせとなっている模様～

1日に発表された10月の輸出額は前年同月比+3.6%となり、前月（同+12.6%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。トランプ関税の本格発動を受けて米国向けに下押し圧力が掛かるとともに、最大の輸出相手である中国向けも力強さを欠く推移をみせているほか、日本向けやEU向けなど先進国向けも総じて前年を下回る伸びとなるなど、世界貿易の萎縮の動きが足かせになっている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比▲1.5%となり、前月（同+8.2%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じていると試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちしている。輸出の先行き不透明感の高まりが素材や部材などの需要の足かせとなっているほか、国際商品市況の調整の動きも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は+71.62億ドルと前月（+61.02億ドル）から黒字幅が拡大している。

4日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+2.4%となり、前月（同+2.1%）から加速して2

ヶ月連続で中銀目標（2%）を上回る伸びで推移している。前月比は+0.31%と前月（同+0.52%）からペースは鈍化するも2ヶ月連続で上昇しているものの、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格は下落基調が続いているほか、国際原油価格の調整を受けてエネルギー価格も落ち着いた推移をみせるなど、生活必需品の物価は比較的安定している。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.2%と前月（同+2.0%）から加速しており、前月比も+0.38%と前月（同+0.48%）からペースは鈍化するも2ヶ月連続で上昇している。金融市場における通貨ウォン安を受けた輸入物価の上昇などを受けて幅広く財価格が押し上げられるとともに、サービス物価にも上昇の動きが確認されるなど、緩やかにインフレ圧力が強まる動きが確認されている。

図2 KR 貿易動向の推移

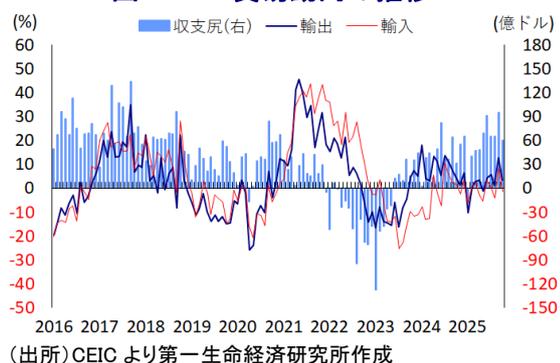


図3 KR インフレ率の推移



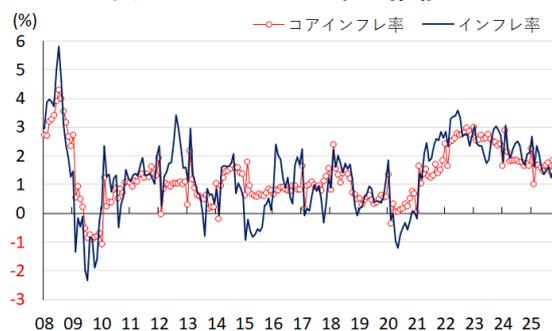
### 【台湾】～半導体などを中心とする米国向け輸出の大幅な拡大を受けて、貿易黒字額は過去最高を更新～

6日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+1.48%となり、前月（同+1.25%）から伸びが加速した。前月比も+0.47%と前月（同▲0.23%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じているものの、生鮮品を中心とする食料品価格は下落しているほか、エネルギー価格も落ち着いた推移をみせるなど、生活必需品の物価に下押し圧力が掛かっている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.84%となり、前月（同+1.46%）から加速しており9ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.84%と前月（同▲0.13%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、金融市場における台湾ドル安を受けた輸入物価の押し上げを受けて幅広く財価格に上昇圧力が掛かるとともに、サービス物価も上昇基調を強めるなど、全般的にインフレ圧力が強まる動きが確認されている。

7日に発表された10月の輸出額は前年同月比+49.7%となり、前月（同+33.8%）から伸びが加速している。前月比も+10.9%と前月（同▲5.6%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、鉱物資源関連のほか、金属関連、精密機械関連の輸出に下押し圧力が掛かっているものの、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出が大きく上振れするとともに、電気機械関連の輸出の堅調さも輸出全体を押し上げている。国別でも、トランプ関税の本格発動による悪影響が懸念された米国向けが大きく上振れしているほか、EU向けの堅調さも輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+14.8%となり、前月（同+25.1%）から伸びが鈍化している。前月比も▲11.3%と前月（同+1.6%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出と対照的に頭打ちの動きを強めている。先行きの輸出に不確実性が強いなかで素材や部材などに対する需要に下押し圧力が掛かるとともに、商品市況の調整の

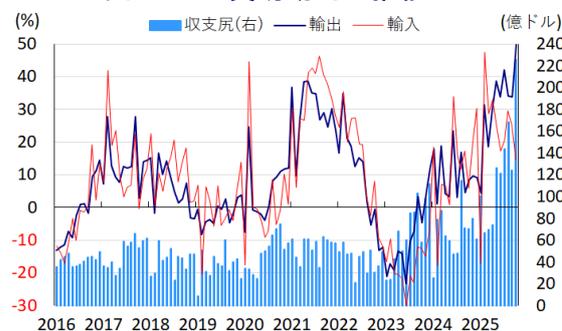
動きも輸入額の重しとなっている。結果、貿易収支は+225.78億ドルと前月（+123.97億ドル）から黒字幅が拡大して単月ベースで過去最高を更新している。

図4 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TW 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [タイ]～生活必需品のみならず、幅広く物価に下押し圧力が掛かるなど、デスインフレ基調が続いている～

5日に発表された10月の消費者物価は前年同月比▲0.76%と7ヶ月連続のマイナスで推移するとともに、前月（同▲0.72%）からマイナス幅が拡大するなど下振れしている。前月比も▲0.11%と前月（同▲0.03%）から4ヶ月連続で下落しており、生鮮品をはじめとする食料品価格が下落するとともに、国際原油価格の調整を反映してエネルギー価格も下落するなど、生活必需品を中心に物価に下押し圧力が掛かる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+0.61%と前月（同+0.65%）から伸びが鈍化しており、4ヶ月連続で中銀のインフレ目標（ $2 \pm 1\%$ ）の下限を下回る推移が続いている。前月比も▲0.45%と前月（同+0.00%）から2ヶ月ぶりの下落に転じており、一部のサービス物価に上昇圧力が掛かる動きがみられるものの、財、サービス両面で幅広く物価が下振れする動きが確認されるなど、デスインフレ圧力が強まっている様子が見える。

図6 TH インフレ率の推移



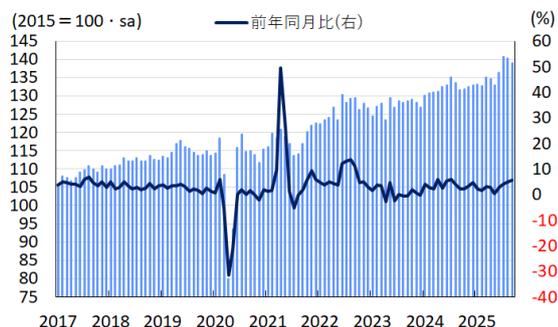
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みの一巡を受けて生産活動に下押し圧力～

7日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+5.7%となり、前月（同+4.8%）から伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.87%と前月（同▲0.33%）から2ヶ月連続で減少しており、トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みの動きを反映した生産拡大の動きに一服感が出ている様子が見える。鉱業部門の生産に大きく下押し圧力が掛かるとともに、主力の輸出財である電子部品関連など製造業の生産も下振れしているほか、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も2ヶ月連続で

減少しており、足元の景気は頭打ちの様相を強めている様子がうかがえる。

図7 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]~生活必需品や日用品需要は弱含む一方、高額消費や余暇需要の堅調さが小売を下支え~

5日に発表された9月の小売売上高は前年同月比+2.8%となり、前月（同+5.3%）から伸びが鈍化している。前月比は▲1.42%と前月（同+0.66%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。なお、同国においては月ごとに自動車販売が上下双方に大きく振れるとともに、小売全体の動向を左右する傾向があり、当月は前月比+4.52%と前月（同▲4.40%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている。よって、自動車を除いたベースでは前月比▲2.35%と前月（同+1.50%）から3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持している。日用品や生活必需品に対する需要は総じて弱含む動きをみせているものの、宝飾品や余暇消費などの需要に底堅い動きがみられるとともに、小売全体を下支えする動きをみせている。

図8 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。